
バカと男の娘（秀吉含む）とテストと召喚獣

まりも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと男の娘（秀吉含む）とテストと召喚獣

【Nコード】

N2950W

【作者名】

まりも

【あらすじ】

文月学園。

科学とオカルトと偶然によって開発された試験召喚システムを取り入れた

学校。そこは成績でのクラスわけによる超格式社会だった。

その最低ランクであるFクラスに所属した女の・・・げふん！男子がいた。

これはそのちよっぴりアニメネタに走ったりする男子とその友人が繰り広げる物語。

俺は蒼季！宜しくな！（前書き）

どうも。まりもです。

アイデアが浮かんだので小説にしました・・・が！

他の小説も完結していないので更新は遅くなるかと思われます。

俺は蒼季！宜しくな！

ここ、文月学園ではクラス振り分け試験が行われていた。

そのとある教室では、観察処分者。吉井明久が試験を受けていた。

（これが難しいと噂の振り分け試験か……。確かに難しいけど……。問題ない。この程度なら。）

カッ

ペンを用紙に突き立てる。

（十問に一問は……。解ける！）

この生徒は……。バカだった。

（二十点は堅いな。）

カッ

おや？姫路さんが倒れましたね。体調でも悪いのでしょうか？

（ん？……。あっ！）

「姫路さんッ！大丈夫？姫路さん！」

コッコッコッコ

「試験途中での退席は無得点扱いとなるが・・・それでいいかね？」

「ちょ・・・ちょっと先生！」

「具合が悪くなって退席するだけでそれは酷いじゃないですか！」

ガタッ

「僕もそう思いますよ先生。」

「蒼李^{あおい}！」

「途中退席なら、後日問題を変えてやればいいのではないのですか？」

「そ・・・そうだよ先生！」

「試験当日の体調管理も試験の内だ！例外はない！」

ここ、文月学園ではクラス振り分け試験が行われていた。

そして、ある教室ではひとりの生徒が授業を受けていた。

（これが試験問題・・・これは、大昔のエジプトか何処かのナントカ文字！？全く分からん。）

「ごそごそ」

この少年

みなつきあおい
水無月蒼季は、ポケットからサイコロを取り出す。

・・・下手をすればカンニングと間違えられるかもしれない。

(これで選択問題はなんとかなる。十点は余裕だな。)

こいつも相当なバカだった。

(だが、数学と保健体育は自身がある。)

それだけはとくいだったらしい。

クラス振り分け試験当日。登校中。

「よし明久、蒼季。試験前の小手調べだ!」

「どんどんこいよ雄二!」

「お、蒼季は大丈夫そうだな。じゃあ行くぞ。三権分立は司法と立法ともう一つは何で成り立つか?」

「ふ、あまり僕を見くびるなよ雄二。二つまでなら絞れる。」

「ほっ」

「憲法（拳法）か漢方（伝法）だったはず。」

「……行政だ。あと蒼李。お前はそんなにバカだったか？」

「いや、ちょっとふざけてみた。」

お気楽である。

「あ、それじゃうちからもー。」

この女子は島田美波。

「では基礎問題！CH₃COOHとは、なんでしょう？」

「……………（ブイッ）」

「吉井？水無月？」

「ごめん（すまん）……………英語は苦手なんだー！！」

「え？これ英語じゃなくて科学……。」

「じゃあ僕こっちだから！」

「「ちょ、ちょっとあんた達相当やばいんじゃない！？」」

こうして試験に向かい、上記の状態だというわけだ。

「な……なんだこれは。」

僕、水無月蒼李が配属されたのは成績が最下位クラスのFクラス。

それを見て口から漏れた言葉はそれだった。

Eクラスまでもう少しだったというのに……。姫路さん騒動で数学さえ欠席しなければ！ツク！

いや、もしかしたらDクラスまで行っていたかもしれない。だが、それにしてもこれは酷い。

先ほど成績最上位のAクラスの教室を少し見てきたが、冷暖房完備の上、座席はリクライニングシート。

さらにお菓子に紅茶など、どこのセレブか聞きたくなるような教室だった。

それに比べて我がFクラスは・・・。

ああ、なんとという格差社会。もう一度教室を見渡す。

腐っていて染みのある畳。

遠目から見ても綿が全くといっていいほど入っていないなさそうな座布団。

今にも壊れそうな卓袱台。

さらになにやら黒いフードを被って鎌を持っている死神のような集団。

ところどころ割れている窓ガラス。

しかしそこに咲く一輪の花

木下秀吉。

何年か前から苦楽を共にしてきた仲間だ。いろんな意味で。

「やあ、秀吉。お前もFクラスか。今日も可愛いな。」

なんと言う美少女！そういいなくなる容姿をしているいつ。

はっきり言ってそこらのモデルには負けないであろう。

「わしは男じゃ！」

なに言ってるんだよ。

「えー。どっからどう見ても女だよ。」

「それを言えばおぬしこそ。」

「……………orz」

「……………言わないで。」

「そちらこそ。」

「……………(ガシッ)」

「おぬしも、苦労しておるのう。」

「秀吉も。すまなかった。」

「まあ、いいじゃろう。」

「なあ、今日は放課後にカラオケでも行かない？少し憂さ晴らしを
したいんだ。」

「お主の奢りなら、いくらでも付き合っつてやるぞ。」

「ありがたい。」

「ぼくもよく女に間違われる。」

「名前もそうだが、容姿が……………」

僕と秀吉が着替えをしたら、教室が血の海になる……。それで分かるかな？

「はあ。」

Fクラスでの学園生活。たぶん明久や雄二もこのクラスだろう。

楽しくなるような気もするけど…………。

まあ、どうにでもなるよね。

俺は蒼李！宜しくな！（後書き）

出来るだけ早く更新したいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2950w/>

バカと男の娘（秀吉含む）とテストと召喚獣

2011年10月9日15時44分発行